

加美町生活支援体制整備事業  
お宝探しの情報紙

# かみまち地域支え合い

お宝、見つけたよ!

わが町の「宝」である子どもたちのお宝さがしに同行。  
自分で探したお宝を手に、元気に見せてくれました。  
(中新田幼稚園なかよしこども園のみなさん)

創刊号  
2022.5  
No.1



# 地域を元気にするために、いま、考えよう



## ～生活支援体制整備事業「協議体」とは?～

少子高齢化が進むなかで、誰もが安心して住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、地域でのつながりや支え合いが大切になってきます。そのためには何を、どのようにしたら良いのでしょうか。生活支援体制整備事業協議体とは、それについて話し合うために作られた組織のこと。

現在、住民の代表をはじめ、行政や農協、生協、商工会等、多方面の関係機関の20名が協議体の委員となり、『より良い加美町』をめざして色々と協議を重ねています。

### 普通の私が必要だと思うもの

初めて委員となった方からは「私なんか委員で良いのでしょうか?」という戸惑いの声も聞かれました。普通の人を感じている問題点を洗い出すことこそが、この事業のポイントであると言えます。

本町のアドバイザーである社会福祉士の眞壁さおり先生は「普通の町民が問題と感じていることを『見える化』することが協議体の役割である」と語ります。

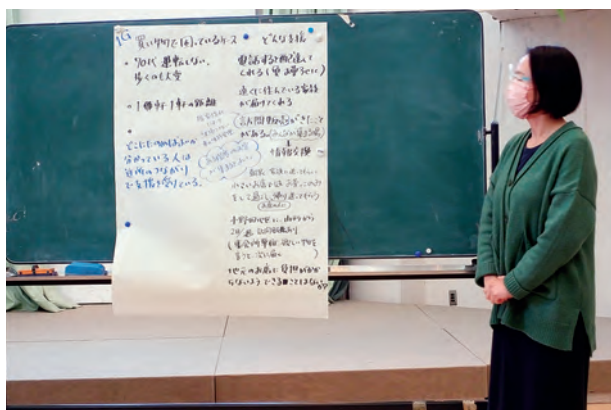


一人ひとり見える視点や感じ方が違うからこそ多様な意見が生まれ、新しい気づきを見つけることができます。一つひとつの問題提起と改善。この積み重ねによって、この町をより住みやすく、より居心地の良い場所にすることができます。協議体は、そのための仕掛けでもあるのです。

### この町に必要な3つの支援

活発な話し合いが進む中で、委員の皆さんで特に共通して抱えている問題がありました。それが『除雪』『買物支援』『通いの場』の3点です。『除雪』は雪が多い加美町ならではの問題です。『買物』も切実な問題で、過疎化やコロナ禍による経営悪化、後継者問題等もあって店をたたむところが多くなっています。お店が近くなければ、その分遠くまで出かけなければならず、そこに『交通手段』という別の問題がもれなくついて来る構図となっています。『通いの場』については全国共通の問題かもしれません。むしろ、ミニデイ等が活発な加美町は、比較的整備されている方だと思います。

3つの問題点がある中で、現状どのような支援やサービスがあるのでしょうか。次回以降はそれらをご紹介します。





## 地域と人をつなぐ『交差点』

～中新田・十日市行政区 手づくり十字路～



### 地域の誰もが、日々立ち寄れる場を

歴史ある中新田地区の商店街。このほぼ中心に、毎日のように地域の人々が集う場所があります。ここの名前は『手づくり十字路』。その名のとおり、手作りのお惣菜に野菜や果物といった農作物などを販売するお店です。お店の奥には大きなテーブルがあり、夕方には毎日のように常連さん達が買物をしたあとで、一息ついておしゃべりを楽しむ姿が見られます。現在はコロナ禍もあり、店内でのお茶飲みは控えめにしているようですが、午後2時半頃の開店から閉店時間まで、常に賑わいは絶えません。

『地域の中に、こういう場所が必要だと思ってね』と語るのは、店主の伊藤幹子さん。もともと鳴瀬地区で農家を営む伊藤さんが、仲間と共にこのお店を始めたのは今から約30年前。以来、ボランティアでお店を手伝ってくれる仲間にも支えられ、買物とお茶飲みを楽しむ、地域の皆さんの憩いの場としてすっかり定着しています。



お客さんを元気に迎える幹子さん（左）。



お店の奥ではお話語り。思わず時間の経過も忘れるほど。



取材日の天気はあいにくの雨。しかし、お客さんは途切れません。



恵さんが作り出す明るい雰囲気の中、小さな子たちも集中！



小学生から高校生まで、子どもたちの作品が店の窓を彩る。



### お店の持つもう一つの『顔』

お店は土日祝日と木曜日が定休日ですが、木曜の夕方になると、店内には子どもたちの元気の良い声が響きます。週に一度、この日だけお店は書道教室に変わるのです。先生は伊藤家のお嫁さんである恵さん。現在生徒は15名ほどで、書いた作品は作品展へ出展するだけでなく、お店の壁や窓に飾られ、店を訪れる人たちが足を止めて眺めます。この日もふらっと訪れた地域の方が、子どもたちの様子を見て声をかけ、自然と世代間交流が生まれていました。

「あと何年、どこまでやれるかわからないけど、来てくれる人とボランティアで手伝ってくれる人がいるうちは続けたい」と語る幹子さん。「ここが休みだとさあ、行く場がねぐなるんだよ」と笑って話す常連さんたち。地域の皆さんが集う「十字路」は、人々の心と心を繋いでいました。



「福祉」ってなに? ということ?? と聞かれたら、あなたはどうか答えるでしょうか。社会福祉協議会の職員は毎年、町内の小学校などから福祉体験学習等の依頼をいただきます。その際、私たちは『「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせをつくるのが「ふくし」である』と、子どもたちに説明しています。

介護保険制度の創設以降、福祉はすっかり「福祉の専門の人が行うもの」となっていました。介護保険のサービスを使えばもう安心、近所の手助けはもういらないので大丈夫、果たしてそうでしょうか? その人を取り巻く、地域の人間関係や助け合いはどうなるのでしょうか?

私たちはもう一度、『人とのつながりというものを見つめなおしたい』と考えています。たまり場となっている地域のお家やお店、おせっかい焼きの人がいる地区等…。それらは全て、その土地に暮らす人々にとっての「普段の暮らしの幸せ」を守ってくれている、かけがえのない「お宝」であるはず。そんな地域に眠っているお宝を発掘し、普段の暮らしの幸せを大切に守っていく、そのような思いから、いま、ここにある地域の力を探して行きたいと思います。



## 地域の情報、教えて下さい!!



### 生活支援コーディネーターからのお知らせ

このたび、加美町生活支援コーディネーターとなりました畠山博教（はたけやま ひろたか）です。

地域のために活動されている方や団体、地域活動など、町内に隠れているお宝を知りませんか!? あまり世間には知られていない皆さんの活動や取り組み等の情報がありましたら是非教えて下さい。お茶っこ飲みでもちょっとした集まりでもOKです。私が皆さんの地域を訪れて取材し、その活動等をここでご紹介させていただきます。ご協力よろしくお願いたします!

お宝の情報連絡先はコチラ ⇒ 電話：0229(63)2547 FAX：0229(63)2898  
E-mail：kamisyakyo@vega.ocn.ne.jp 担当 畠山まで



発行日 2022年5月1日  
発行 社会福祉法人加美町社会福祉協議会  
〒981-4261 宮城県加美郡加美町字町裏320番地  
(加美町中新田福祉センター内)  
TEL：0229(63)2547 FAX：0229(63)2898  
URL：http://www.shakyo.or.jp/hp/288/

※この広報紙は加美町生活支援コーディネーター業務委託に基づき発行しています。

